

令和 3 年度 峰小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重の教育を基盤に、心身ともに健康で、自分の夢や目標のために自ら考え進んで行動できる心豊かでたくましく生きる児童の育成

(1)健康でたくましい子【元気】(2)よく考え進んで学ぶ子【やる気】(3)心豊かで、思いやりのある子【思いやり】

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ 「地域とともにある学校」

教育基本法、学校教育法及び同施行規則、学習指導要領、栃木県教育委員会の指導の指針、宇都宮市教育委員会第2次学校教育推進計画、第2次宇都宮市学校教育スタンダード、令和3年度指導の重点等に合致した学校経営を目指す。また、本校の教育目標の達成のため、児童の実態や児童の発達段階、特性、地域社会や保護者の願いなどを十分把握するとともに、うつのみや学校マネジメントシステムを十分に生かすことにより、全教育活動を通して心豊かでたくましく生きる児童の育成に努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1)児童にとって居がいのある活力あふれる楽しい学校・学級を目指し、児童が主役となる場を意図的に設定し、充実感や達成感を味わうことにより、自ら進んで行動できる児童を育成する。

(2)長所を引き出し、認め励ます教育を実践する中で、自己の成長を実感させ、自己肯定感を高める。規範意識の醸成、望ましい人間関係と社会性の育成に努めるために、学校教育全体をととして人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動を推進する。

○(3)楽しく分かる授業の実践ときめ細かな指導の充実、ICT等を効果的に活用して学習意欲を高めるとともに、学びに向かう集団づくり、家庭と連携した家庭学習を推進して、学力の向上を図る。

(4)生涯にわたって健康で安全な生活を実現する力を育むために、不審者・災害訓練、交通安全教室などを通して身を守るための行動力の育成、健康や体力の増進、望ましい食習慣の確立に努める。

○(5)地域の資源・人材を積極的かつ有効に活用するとともに、地域学校園の教育ビジョンを念頭に小中一貫教育の利点を生かした教育活動を推進し、信頼される学校の実現を目指す。

(6)教育公務員としての自覚と責任を持ち、コンプライアンスを遵守するとともに、勤務時間を意識した働き方改革と校務の効率化・簡略化、事業内容の検討・見直し等を推進する。

○(7)教職員の専門性や特性が生かせる校務分掌や指導形態を工夫するとともに、校内研修を活性化させ、教育専門職としての資質と能力の向上を目指す。

(8)ユニット部会を活用して教職員の学校経営への積極的な参画を促すとともに、組織マネジメントの考えに基づき、全教職員協働による教育目標の達成に努める。

[陽東地域学校園教育ビジョン]

「地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、確かな学力の定着を図り

心豊かでたくましく生きる子どもの育成」

4 教育課程編成の方針

(1)地域協議会を窓口とした保護者や地域団体等の学校への積極的な参画の推進

(2)地域団体との連携と地域資源の積極的な活用の推進

(3)外部の学校評価等を活用し、地域住民が来校したくなる開かれた学校・地域とともにある学校の実現

(4)地域活動等への積極的な参加の奨励と相互理解の推進

(5)地域の教育力を最大限に活用した働き方改革の推進

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・重点活動〔峰小 元気・やる気・思いやり活動〕の推進
- ・学校経営への参画意識の高揚と教職員による組織的で効率的な企画・運営の推進
- ・児童や地域の実態，地域の環境に即した教育計画の作成と実践
- ・自分の夢や目標の実現に向けてたくましく生きる児童の育成を目指した教育活動の推進

【学 習 指 導】【やる気】＝「自ら進んで表現できる児童の育成」

- ・基礎・基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力等の育成を目指した，教材やＩＣＴ等を効果的に活用した授業展開，問題解決的な学習の充実，日々の学習とまとめの学習の充実，家庭学習の習慣化
- ・「できた」「分かった」が実感できる「分かる授業」の展開と個に応じた指導の充実
- ・学習目標の明確化と学習のまとめや振り返りを意識した学習展開の工夫，学び合える活動等の工夫
- ・「学習の約束」を活用した学習の準備，返事，チャイムの合図の順守の徹底
- ・読書活動の推進・充実と読解力の育成

【児 童 生 徒 指 導】【思いやり】＝「自ら考え，適切な判断と行動ができる児童の育成」

- ・「峰小よい子の一日」や「陽東地域学校園児童生徒の目標」を活用したルールやマナーを守る態度の育成，互いに認め合い励まし合おうとする態度，高め合える学級集団の育成
- ・感謝の集いやいじめゼロ集会の実施，人権標語の作成による感謝する心や人を思いやる心，生命や人権を尊重する態度の育成
- ・「特別の教科 道徳」の指導の充実と道徳的实践力の育成
- ・共に学び合う場や互いの良さを認め合う場の意図的な設定による望ましい人間関係の醸成
- ・確かな児童理解に基づく自己肯定感を高める声掛けの継続と個を生かす教育の実践
- ・家庭や各種団体と連携したあいさつ運動の推進

【健康（体力・保健・食・安全）】【元気】＝「生涯にわたり心身の健康保持増進を図ることができる児童の育成」

- ・元気っ子チャレンジや各種検定への積極的な参加，自発的なあいさつと返事の励行
- ・「元気っ子健康体力チェック」の活用等による進んで運動に親しむ態度の育成，自己の健康増進に向けた生活習慣の定着
- ・感染症の予防についての正しい理解と適切な行動の指導
- ・歯磨きボランティアの活用による歯磨き指導（きらきらクラブ）の充実
- ・視力低下を防ぐ「目の体操」「姿勢体操」の指導
- ・望ましい生活習慣の育成と食に関する指導の充実
- ・教育活動全体を通じた安全教育の充実・徹底，危険回避能力の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
	A 1 児童は，進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は，授業中，話をしっかり聞いたり，発表したりするなど，進んで学習に取り組んでいる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①「話し方のきまり」を掲示し，児童が発言したり話し合ったりする際の参考にさせる。 ②児童が多様な考えをもち，主体的に学習に取り組めるようにするため，授業の中に児童が考えたり話し合ったりする時間や自分の考えを発表する場を設ける。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は95.8%で，数値指標を十分達成している。保護者の肯定的回答も94.2%と数値指標を達成している。 【次年度の方針】 地域学校園統一「学習のきまり」を活用し，学習指導に生かすことで，児童がより主体的に学習に取り組めるようにする。

目 指 す 児 童 の 姿	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①全ての教育活動の中で、自他の特徴や良さについて考えたり伝え合ったりする時間や場を設定する。 ②「特別の教科 道徳」において、児童の発達段階や特性等を考慮し、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的学習等を適切に取り入れるなど指導方法を工夫する。 ③感謝の集いやいじめゼロ集会を実施し、感謝する心や人権を尊重する態度を育成する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は94.6%で昨年度より向上すると共に、数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 全ての教育活動の中で自他の特徴や良さについて考えたり伝え合ったりする時間を設定する。また「特別の教科 道徳」の時間の授業改善に努め、児童の心に響く道徳授業を行う。今年度削減や縮小された行事や集会をできる範囲で行い、継続して思いやりの心を育んでいく。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①「<u>学習のきまり</u>」を掲示し、必要に応じて確認させるなどしながら、<u>学習訓練を徹底させる。</u> ②「峰小よい子の一日」に基づいた生活目標を設定し、学級活動や朝・帰りの会等で繰り返し継続的に指導していくことにより、基本的生活習慣を身に付けさせる。 ③「峰小よい子の一日」徹底運動を行い、めあてをもたせたり振り返りをさせたりして、自覚を深めさせる。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は90.1%であり、昨年度より若干下回ったが、数値指標は10%以上上回っている。 【次年度の方針】 「学習のきまり」「峰小よい子の一日」に基づいた生活を継続して、指導する。定期的に振り返りを行うことで、さらに学習習慣・基本的生活習慣を身に付けさせる。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①あいさつを「今年度のテーマ」をして常に児童に意識させる。 ②あいさつ運動月間を設定するとともに、<u>PTA や地域協議会、地域学校園等と連携したあいさつ運動を実施する。</u> ③教職員が率先してあいさつをする。 ④あいさつの効果や重要性について、道徳や学級活動の時間、全体朝会・一斉下校等を活用して指導する。	B 【達成状況】 肯定的回答は、教職員は97.1%、児童は96.0%、保護者は87.2%、地域住民は100%と、数値指標を上回った。 【次年度の方針】 コロナ禍の影響も考慮しつつ、心のこもった明るいあいさつができるよう、教師をはじめ大人が範を示す。次年度は感染症に気を付けながらあいさつ運動の機会を設定し、啓発に努める。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①授業において、既習事項をもとにすれば必ず解ける少し難しい課題を用意し、児童の挑戦意欲を喚起する。 ②黙々と努力することを必要とする課題に取り組ませる中で、自分の努力の結果と向き合わせ、次の意欲につなげる。 ③根気強く取り組む喜びやおもしろさ等を児童が自主的に見出せる課題を設定し、児童が最後までやり遂げられるように支援する。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答は93.0%と数値指標を十分達成している。保護者の肯定的回答は78.2%だった。 【次年度の方針】 キャリア教育とも連携して、学習の積み重ねをファイルやシールなどで可視化したり、学校便りや学年便りで周知したりするなど、児童の頑張りが保護者に明確に伝わるようにする。良さを認め、目標に向けて粘り強く取り組めるように励ます指導を継続する。

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①「うつのみや元気っ子チャレンジ」に参加し、楽しみながら運動する機会を数多く持たせる。 ②健康に関する意識を高めるために、外部講師や養護教諭と連携した授業や保健指導を行う。 ③給食週間やお弁当コンクールなどの食育行事に進んで参加するよう支援し、<u>各自の望ましい食習慣の醸成を図る。</u> ④各種災害を想定した避難訓練、交通安全教室、不審者対応避難訓練を実施し、児童が危険を予測し、自らの命を守り抜くための行動力を育成する。	【達成状況】 保護者、教職員、児童、地域住民の肯定的回答が90%を超えている。コロナの影響で元気っ子チャレンジは中止になったが、感染防止対策を徹底しながら教科体育や休み時間に、楽しみながら運動をした。また、栄養士や養護教諭、外部講師を活用した授業を行い、健康に関する子どもたちの意欲を高めた。 【次年度の方針】 今年度を実施した様々な出前講座を継続するとともに、保健学習や家庭科の時間の中で体力・保健・食育・安全の4つの分野を関連させた授業や保健指導、給食指導を行う。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①学級や家庭のために活動することを通して、集団のきまりを守ることや自分の役割を果たすことの大切さに気付かせる。 ②働くことの意義を理解するために、社会科や総合的な学習の時間などにおいて、地域社会で働く人から話を聞いたり働く人と交流したりする活動を行う。 ③宮・未来キャリア教育に位置付けられている活動の振り返りを実施し、自らの成長や変容などの自己理解を促す。	【達成状況】 児童の肯定的回答は93.0%であり、数値指標を上回った。 【次年度の方針】 キャリアパスポート等を活用しながらキャリア教育を推進し、進んで働くことの意義を理解したり、行動したりできる児童の育成を目指す。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①児童が英語を使って自分の気持ちや考えなどを適切に伝えることができるようにするために、教員が自ら積極的に英語を使う。 ②児童が生きた英語に触れる機会の充実を図るために、ALTを活用した、英語によるやりとりを中心とした授業を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答は93.9%で教職員の肯定的回答は97.1%と、ともに数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 教員が自ら積極的に英語を使う。引き続き、ALTを活用した、英語によるやりとりを中心とした授業を行う。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①生活科・社会科の授業などにおいて、体系的な学習を行い、児童が郷土宇都宮の歴史や伝統文化、産業などについて理解し、郷土への愛情と誇りが持てるようにする。 ②国語科の授業などにおいて、百人一首に親しむ学習に取り組み、郷土宇都宮に対する誇りや愛情を育む。 ③各種たより等で保護者への啓発を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答は88.5%で、数値指標を上回っているが、保護者の肯定的回答は70.6%だが、昨年度と比べて、2.2ポイント上がっている。 【次年度の方針】 各学年の実態や教科に応じて、郷土宇都宮の歴史や伝統文化、産業などについて触れる機会をもち、郷土宇都宮に対する誇りや愛情を育むようにする。出前授業での内容などを各種便り等を活用して保護者に発信することを継続する。

A10 児童は、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①タブレット型パソコンをはじめとするＩＣＴ機器を活用して、主体的・対話的で深い学びを促進し、児童の情報活用能力を育成する。 ②教科学習で学んだことを確かめたり、自分の考えをまとめたりするなど主体的な学習活動を効果的に行うために、学校図書館を活用する。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答は95.3%で数値指標を達成している。保護者の肯定的回答も83.5%と昨年度を上回った。教職員の肯定的回答は100%だった。 【次年度の方針】 ＩＣＴ機器の活用が充実するよう、教職員が有効な活用についてさらに研修を重ねたり、情報を共有したりして、学習活動において効果的に使用できるようにする。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①高齢者への感謝や敬う心を育むために、生活科や総合的な学習の時間の授業などにおいて、高齢者を講師として招いたりインタビューしたりする学習活動を実施する。 ②高齢者を身近な存在として感じることができるよう、運動会や授業参観に招待する。	B	【達成状況】児童の肯定的回答割合は94.6%で、数値指標を上回っている。今年度もコロナ禍で学校での高齢者との交流はほとんどできなかったが、児童は日頃から感謝やいたわりの心をもって生活していることが分かる。 【次年度の方針】 今後のコロナ禍の状況に応じて、生活科、総合的な学習の時間の授業や感謝の集いなどで高齢者と触れ合う機会を設け、身近な存在であることを意識させていく。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について関心をもっている」⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①環境や国際理解、防災や食などをテーマにＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）に取り組む。 ②各教科において、これまで行ってきた学校行事や体験活動などを「持続可能な社会」の視点から関連付け、教科の枠を超えた横断的、総合的な教育活動を実践する。	A	【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は91.2%で、数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 「持続可能な社会」の実現に向けて、「ＳＤＧｓ」や「ＥＳＤ」について教職員間で共通理解を図ったうえで、より分かりやすい事例を挙げ、教科等との関連を図りながら指導する。
A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①特別な支援が必要な児童について、個別の支援計画を作成・活用し、学校全体で指導にあたる。 ②学級担任とかがやきルーム指導員が指導目標や指導の手立てについて、直接話し合ったり、指導記録を確認したりする時間を設け、かがやきルームにおける指導の充実を図る。 ③保護者や関係職員（交流学級等）と丁寧な連絡を取り合い、交流及び共同学習を積極的に推進する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%であり、数値指標を上回った。 【次年度の方針】 全職員が児童の実態を把握し、児童・保護者に寄り添っていくことを共有する。様々なケースに迅速・柔軟に対応し、チームで解決に向けて尽力する。

目 指 す 学 校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 (いじめ解消率 100%)	①いじめゼロ強調月間はもとより、あらゆる機会を通して、いじめが許されない行為であることを指導する。 ②アンケートや教育相談の結果を踏まえて、道徳や学級活動の時間に望ましい人間関係を醸成するための心情や判断力を育てる。 ③HP や学校だより・児童指導だより・学年だよりを利用していじめ対策や学校の現状を公表し、家庭・地域との連携を図る。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答は98.8%であり、数値指標を上回った。教職員の肯定的回答は100%、地域は93.3%、保護者は91.6%だった。 【次年度の方針】 「いじめゼロ強調月間」「教育相談」「年5回のアンケート」等を確実に実施し、その質を高めていく。全ての教育活動において、いじめは絶対に許されないものだという心情を教職員一丸となって育む。ホームページや学校だより、児童指導だより、学年だより等を通じて周知に努める。コロナ関連いじめに十分留意し、予防に努める。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①児童の自己肯定感を高めるために、児童が主体的に活動する場や活躍できる場を意図的に設定する。 ②児童と教師の信頼関係を構築するために、常日頃から児童同士の交友関係の把握に努めるとともに、受容的な態度で寄り添い、児童の話に積極的に耳を傾ける。 ③欠席状況共有シートなどで欠席状況を把握するとともに、校内教育支援委員会を活用し、学校全体で組織的・計画的に支援を行う。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は98.1%であり、数値指標を上回った。教職員は100%、保護者は95.6%だった。 【次年度の方針】 教育活動全般を通して、規範意識や思いやり、助け合いの心を育て、望ましい人間関係を築くと共に、いじめを自分たちの問題として捉え、正しく理解し、その解決のために主体的に行動できる児童を育成する。また、新たな不登校を生まないために、定期教育相談や「ともだちアンケート」等を活用し、児童理解に努め、問題の早期発見・早期対応を図る。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①外国人児童が充実した学校生活を送ることができるように、外国人児童や保護者の情報を収集し、校内での指導体制について共通理解を図る。 ②外国人児童の母語で日本語を指導する母語指導者と日本語で日本語を指導する日本語ボランティアと連携し、外国人児童の日本語指導を行う。 ③外国人児童が在籍する学級においては、学級内の人間関係についてきめ細やかな配慮を行い、個性を認め合う受容的な学級づくりに努める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は100%で数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 外国人児童の母語で日本語を指導する母語指導者や、日本語で日本語を指導する日本語ボランティアと連携を図り、外国人児童の日本語指導を児童の実態に応じて行う。
	A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、今の学校が好きです」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①学校行事や児童活動等で、児童が自主的・主体的に取り組む場を意図的に設定する。特に、<u>あいさつ運動では、児童の発想や主体性を生かし、学校全体であいさつの気運を高めていく。</u> ②Q-U テストや学校生活アンケートを活用して、一人一人の児童にとって居がいのある学級づくり、分かる授業の展開に努める。 ③学級活動やロング昼休みを利用して、学級全員で遊んだり教師と児童が共に遊んだりする機会をもつ。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は、95.5%であり、数値指標を上回っている。教職員、地域住民の肯定的回答は100%であり、保護者も95.3%だった。 【次年度の方針】 毎日の授業、学校行事や児童会活動、あいさつ運動等において、児童が自主的・自発的に取り組める場を意図的に設定し、活気のある明るい雰囲気を醸成していく。

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①<u>授業のめあてを明確にするとともに、板書や発問、授業形態等を工夫した授業を行う。また、終末には授業で分かったことを振り返る時間をもつ。</u> ②児童一人一人の実態をとらえ、教材研究をするとともに、学校課題の研究や一人一授業等で積極的に授業を公開し、互いの指導法を向上させる。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は98.1%と数値指標を上回った。保護者の肯定的回答も93.9%と上回った。 【次年度の方針】 今後も学習のめあてを明確に示し、振り返りの時間を確保する。学校課題研究や一人一授業への取組も引き続き実施し、指導法の向上を目指す。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に係る職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①学校職員（学校図書館司書、学校栄養職員、ALT、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーなどを含める）が協力して学校業務に取り組める体制を整えるため、専門性や特性を生かした校務分掌を組織する。 ②チームとして学校の力を最大限に生かすために、事前に連絡や話し合いの場を設定する。さらに学校業務に取り組む中で進展状況及び達成度を確認し、改善策等を共有していく。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は100%で、数値指標を上回っている。学校職員（学校図書館司書、学校栄養職員、ALT、かがやきルーム指導員、ICT支援員、スクールカウンセラーなどを含める）がそれぞれの専門性や特性を生かし、協力して学校業務に取り組めるような体制を整えることができた。 【次年度の方針】 引き続き、学校スタッフと学校業務の進展状況及び達成度を定期的に確認するとともに、働き方改革を意識しながら改善策等を考え、学校全体で共有していく。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①学校は、長時間労働を改善するために、業務の精選、校務分掌の見直し、外部人材の活用など業務負担の軽減に取り組んでいる。 ②教職員は、効率的に業務を進め、長時間労働にならないように努める。 ③勤務時間を意識した働き方を推進するため、教職員が取りやすい形でリフレッシュデーを実施する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は97.1%で、数値指標を上回っている。職員打合わせの放課後移行やミライム（掲示板、情報メール）の活用、業務の精選等が、業務の軽減につながった。 【次年度の方針】 勤務時間を意識した働き方を推進する。業務の精選、校務分掌の見直し・均等化をさらに推し進める。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①交流授業や中学校訪問等を通して中学校進学に対する児童の不安軽減を図る。 ②<u>学校園で統一して、お弁当の日・統一献立・学校保健委員会等を行うことで学校園間の連携を強化する。</u> ③「陽東地域学校園ナビ」活用して児童・保護者の陽東地域への所属感を高める。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答は81.3%で、数値指標を上回っている。今年度もコロナ禍における交流活動の中止・縮減があったが、交流の仕方を工夫し行うことができた。児童の肯定的回答も34.9ポイント上がった。 【次年度の方針】 今後もコロナ禍の状況に応じて、家庭学習や学習のきまり、交流授業、児童指導など、学校園間の連携を強化していく。ホームページや学年・学校だよりなどを活用し、情報伝達の方法を工夫することで、保護者や地域に小中一貫の取組がうまく伝わるようにする。また、「陽東地域学校園ナビ」の活用を通して、児童・保護者の陽東地域への所属感を高めていく。

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①「魅力ある学校づくり地域協議会」を窓口に、保護者や地域住民及び峰地域団体の学校教育支援活動を推進する。 ②地域の人材・教育資源を有効に活用した学習活動を展開し、地域の良さに気づき、地域に貢献しようとする態度を育成する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は93.4%で、数値指標を上回っている。学校は、地域協議会と連携し、峰地域の人材や資源も有効に活用して学習活動を展開してきた。 【次年度の方針】 今後もコロナ禍の状況に応じて、地域協議会を窓口に、地域の人材等を有効に生かしていく。また、教育効果が高まる学習活動において、積極的に地域人材・資源を活用していく。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①企業、地域の各種団体、「街の先生」、宇都宮大学、ボランティアなどとの連携・協力による活動をさらに充実する。 ②「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携を密にし、学校運営の充実を図る。特に、地域コーディネーターと連絡・調整を図りながら、学校支援ボランティアの活用を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は93.4%で、数値指標を上回っている。企業や「街の先生」、宇都宮大学の学生などと連携・協力したり、オンラインを活用したりして、学習活動を行うことができた。 【次年度の方針】 今後もコロナ禍の状況に応じて、実施できることは行い、地域の各種団体や学校支援ボランティア、宇都宮大学等と連携し、地域とともに歩む学校づくりを推進していく。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上	①教室内外の掲示物を整えるとともに、定期的にロッカーや机の中を整頓させるなどして、学習にふさわしい環境を維持する。 ②場所に応じた清掃の仕方の指導の工夫や班長への指導の充実を図り、縦割り班清掃を通して望ましい環境整備に努める。 ③長期休業等を利用して、特別教室や資料室の整備を行う。 ④安全な学習環境を確保するため、日常的な点検を行い、施設・設備の維持管理や修繕を図る。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答割合は94.5%、地域住民の肯定的回答割合94.1%で、数値指標を上回っている。定期的な机やロッカー等の整理・整頓や日常的な施設・設備の点検を行い、安全な学習環境を確保してきたが、今年度も、職員による毎日の消毒や消毒液の設置及び教室の換気、教職員やPTA、地域ボランティアのトイレ清掃など、新型コロナウイルス感染症対策を地道に行ってきた。 【次年度の方針】 新型コロナウイルス感染症に対して継続的な感染症対策を行い、安全な環境づくりを行う。また、毎日の整理整頓や教室等の整備などを通して、学習にふさわしい環境を維持する。施設設備の維持管理では、定期的に巡視や点検を行い、計画的に修繕していく。
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①児童の情報活用能力を育成するために、タブレット型パソコンをはじめとするICT機器や学習に必要な備品を整備する。 ②学校図書館を活用した学習を効果的に行うために、学習に必要な図書を充実させるとともに、学校図書館司書と連携を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は95.3%で数値指標を達成している。保護者の肯定的回答も83.5%と昨年度を上回った。教職員の肯定的回答は100%だった。 【次年度の方針】 学習に必要な備品を整備したり、児童がタブレットを使用する上での手引きを作成したりして、ICT機器使用の環境を整える。また、学校図書館司書と連携し学習に必要な図書を充実させる。

本校の特色・課題等	B 1 児童は、峰小の合言葉「元気・やる気・思いやり」を意識して生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、『元気・やる気・思いやり』の合言葉を意識して生活するよう指導している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①峰小の合言葉を行事や活動のねらいに位置付け、意識化を図る。 ②行事や集会等で、合言葉に沿って児童が活動する様子を示すことにより、よりよい校風づくりを推進する。 ③学校便り・学年だよりに児童の活動の様子を掲載し、保護者への合言葉の周知を図る。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は97.7%で、数値指標を上回っている。学校・学年だより等への関連記事掲載、朝会での講話、校内掲示物等により、「元気・やる気・思いやり」の合言葉の意識化を図ることができた。 【次年度の方針】 引き続き、合言葉に沿って学級目標を設定し、目標実現に向けて努力する様子を示したり、合言葉が目に残るよう保護者に周知の仕方を工夫したりしていく。
	B 2 児童は、各種検定カード等をもとに、めあてをもって運動に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「自分は、検定カードなどをとにめあてを決め、達成に向けて努力している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①新体力テストの結果から、課題を明確にし、スポーツ集会や教科体育の時間に計画的に補強していく。 ②各種検定カード・ミニマムを活用して各人に応じためあてをもたせ、教科体育や休み時間に取り組む支援する。なわとび検定では、児童同士で技を伝達する機会を設け、さらに意欲・技術の向上を図る。 ③取組の様子を、「元気活動」として学校だよりや学年だよりで家庭・地域に知らせ、意欲の向上を図る。	B 【達成状況】 肯定的回答は、教職員97.1%、保護者81.0%、児童は87.6%で数値指標を上回っている。なわとび検定においては、委員会活動による下級生への支援を行った。また、鉄棒の学習においてもカードを活用し、意欲・技術の向上に努めた。学年便りなどによる情報の発信が必要であった。 【次年度の方針】 学年便りなどで、各種検定カードを活用している様子を家庭・地域に知らせ、意欲の向上を図る。 引き続き児童にめあてを持たせ、取組を奨励していく。
	B 3 児童は、読書の習慣がついている。 【数値指標】 全体アンケート 「自分は、楽しく読書をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①週2回の読書タイムを確実に実施する。 ②読書ノート「みね読書人」の一層の活用を図る。 ③図書館だよりや「読書いっぱい活動」により、家庭と連携して「家読」を奨励する。 ④巡回図書を積極的に活用する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は90.1%で数値指標を上回っている。保護者の肯定的回答は73.1%だった。 【次年度の方針】 引き続き、朝の「読書タイム」を継続するとともに、家庭でも読書の時間を確保できるよう声掛けをする。また、読書ノートへの記入をその都度児童へ呼びかけ、記録を累積させる。
	B 4 学校は、異学年・異校種間の交流や保護者・地域の方との交流により学校生活に潤いをもたせ、「来たる学校づくり」を推進している。 【数値指標】 全体アンケート 「自分は、異学年の友達や地域の方々と一緒に、充実した活動をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①児童会活動や学校行事等において、縦割り班での活動積極的に取り入れる。 ②授業や委員会、クラブ活動などにおいて、幼稚園・保育園・中学校・地域人材との交流を積極的に行い、内容の充実を図りながら、児童との豊かな心情を培う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は93.4%で数値指標を上回っている。コロナ禍の制約がある中でも委員会活動やクラブ活動、縦割り班清掃や「なかよしタイム」での異学年交流により、望ましい関係が築かれ、児童が楽しく学校生活を送る姿が見られた。 【次年度の方針】 引き続き、状況に応じて縦割り班での活動を取り入れ、幼稚園・保育園・中学校・地域人材との交流の機会を確保し、充実した活動を計画・推進していく。

B5 児童は、自分の歯に関心を持ち、食後丁寧に歯磨きをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「自分は、食後ていねいに歯磨きをしている」⇒児童の肯定的回答 90%以上	①歯と口の健康に関する意識を高めるために、学校医や養護教諭と連携した授業や保健指導を行う。 ②保健だよりを毎月1回発行するとともに、むし歯のない児童や歯磨き名人を表彰して歯磨きへの意欲を高める。 ③保健委員会やボランティアを活用して、歯磨きの個別指導を実施する。 ④クラス全員での歯磨きをさらに徹底していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答は93.0%で数値指標を上回っている。コロナ禍で、十分な歯みがき指導はできなかったが、長期休業中に歯垢の染出しを行うことで、歯の健康に対する関心を高めた。また、歯の健康教室も、感染防止対策を講じながら行うことができた。 【次年度の方針】 コロナの感染状況を注視し、学校歯科医の指導を仰ぎながら、今年度の取組を継続できるかどうかを検討していく。
B6 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート「自分の子どもは、家庭学習（宿題）をしている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習時間の目安や自主学習の例などを示して、児童が主体的に家庭学習に取り組めるようにする。 ②家庭学習に対して適切な評価をするなど、児童の意欲を高める工夫をする。 ③学校だより・学年だより・HP等で家庭学習の意義や期待される効果を取り上げ、保護者の協力を得る。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は91.5%と数値指標を達成している。 【次年度の方針】 引き続き「家庭学習の手引き」を活用するとともに、各学年で自主学習ノートや家庭学習記録カードを利用して、休日を含めた家庭学習の習慣化を図る。「家庭学習がんばり週間」での取組や日々の取組での頑張りを校内・学級内で称賛し、児童の意欲が高まるようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

「目指す児童の姿」について

本校の重点活動【**峰小 元気 やる気 思いやり活動**】の視点から評価する。

「**健康（保健・食・安全）・体力【元気】**」においては、A6「健康や安全に気を付けて生活」が、教職員・地域・児童・保護者全てで90%以上の高い肯定的割合が得られた。また、本校独自の質問項目B2「各種検定カード等をもとにめあてをもった運動」は、教職員・児童・保護者の肯定的割合が80%以上であり、B5「歯磨き」では、教職員・児童・保護者の肯定的割合が80%以上であった。これらの結果から、評価項目の数値指標は達成していることが分かる。今後も引き続き、体育の授業を中心に運動への関心が高まる活動を実践していく。さらに、保健の授業及び学級活動の時間を通して、児童が自分の体の成長や健康について正しく理解したり、安全への意識をもって生活したりすることができるように指導をしていく。食についても、毎日の給食指導や給食だより等による情報発信、食育コーナーの環境整備を継続していく。さらに、地域学校園共通の給食週間やマナー週間及び統一献立の実施、お弁当コンクールへの参加を通して食習慣の形成を図っていく。

「**学習指導【やる気】**」においては、A1「進んで学習」の肯定的割合は、教職員・保護者・児童90%以上であった。A5「目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組む」は、教職員・児童は90%以上、保護者は78.2%であった。A8「英語を使ってコミュニケーション」は、教職員・児童90%以上であった。A9「宇都宮の良さを知っている」は、教職員・児童は85%以上であったが、保護者は70.6%と15ポイント以上差がついた。A10、A25「ICT機器や図書等を学習に活用」は、教職員・児童は95%以上、保護者は83.5%であった。A18「きめ細やかな指導」の肯定的割合は、教職員・児童は95%以上、保護者は93.9%であった。これらの結果を総合的にみると、児童の肯定的割合はいずれも高く、児童は日々学校において進んで学習に取り組んでいる実態を捉えることができる。教職員・児童と保護者の肯定的回答の差が出たA5、A9については、学年便りなど各種便り等を通して理解を得られるように努めていきたい。本校独自の質問項目B3「読書の習慣」は、教職員・児童は90%以上、保護者73.1%であった。読書ノート「みね読書人」の有効活用、巡回図書の有効活用、地域学校園共通の活動を通して、更なる読書習慣の向上を図っていきたい。B6「家庭学習の習慣」は、教職員・保護者・児童90%以上であった。家庭学習については、「家庭学習の手引き」「家庭学習記録カード」を活用したり、「家庭学習がんばり週間」を設定したりしたことで着実に習慣化が図られてきている。引き続き保護者の理解協力を得ながら、家庭学習の習慣が維持継続できるように努めていきたい。

「**児童指導【思いやり】**」においては、A2「思いやり」A3「きまりやマナー」は、児童・教職員・保護者・地域住民全てで90%以上だった。また、A4「あいさつ」の肯定的割合も、コロナ禍にあって大きな声でのあいさつができない状況であるにもかかわらず、児童・教職員・保護者・地域住民が85%以上という結果だった。「心のこもったあいさつ」を励行し、児童会が主体となってあいさつ運動を行った結果だと考えられる。A7「夢や目標」の肯定的割合は、児童・教職員・

地域住民が95%以上だったのに対し、保護者は78.2%だった。このような実態を受け、「心豊かで思いやりのある子」を育むために、全教育活動の中に共に学び合う場や自他の良さを認め合う場を意図的に設定し、家庭にも働きかけながら、児童の自己肯定感を高め、望ましい人間関係の醸成に努めていく。また、キャリアパスポート等を活用しながらキャリア教育を推進し、進んで働くことの意義を理解したり、行動したりできる児童の育成を目指す。「あいさつ運動」では、児童会を主体としてPTA・地域学校園などと連携して推進し、あいさつを通して周りの人を大切にする態度を育成する。「峰小よい子の一日」に即した指導を継続的にを行い、ルールやマナーを守る態度を育むことで、周囲を気遣い、社会に貢献する気持ちをもつ児童を育てたい。

「目指す学校の姿」について

本校独自の質問項目B1「児童は「元気・やる気・思いやり」を意識した生活」の肯定的回答は、教職員100%・保護者97.7%・地域93.8%・児童94.6%となっており、本校の「目指す児童像」を示した合言葉が十分に意識されていることが分かる。

保護者や地域との連携を示す質問項目A21「小中一貫・地域学校園の取組」の肯定的割合は、教職員100%・保護者81.3%・地域92.9%・児童72.1%、A22「地域の教育力を生かした特色ある教育活動」とA23「家庭・地域・企業等との連携・協力」は、教職員100%・保護者87.8%・地域94.1%・児童93.4%であった。また、本校独自の質問項目B4「来なくなる学校づくり」は、教職員100%・保護者82.7%・地域93.3%・児童93.4%であった。これらの結果を見ると、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止により、行事や活動が中止・縮減・制限された中で、工夫しながらなるべく実施する方向で教育課程を組んだことから、コロナ禍にあっても、ある程度、学校経営方針の「地域の資源・人材を積極的かつ有効に活用するとともに、地域学校園の教育ビジョンを念頭に置いた教育活動の推進」をしていくことができた。このような状況を踏まえて、来年度も、「with コロナ」として、何ができるのか、どのように行うのかを考えながら、教育目標を保護者・地域と共有し、教育課程において児童に育むべき必要な資質・能力を明確にして教育活動を推進していく。その際に、地域協議会や宇都宮大学を窓口地域人材・資源の積極的な活用を図り、地域と連携しながら教育目標の実現を図っていく。また、実施した教育活動については、学校だより・学年だより・懇談会・ホームページで積極的に紹介し、学校教育への理解を深めていくようにする。

A24「安全に配慮した環境づくり」の肯定的回答は、教職員100%・保護者94.5%・地域94.1%であった。学校の施設・設備に関しては、日常点検と定期的点検を実施し、問題箇所が見つければ、修理や補修及び予防的措置に取り組んできた。また、コロナ禍において、マスクの着用やうがい・手洗いの励行、備品等のこまめな消毒、消毒液の設置、教室等の換気など、新型コロナウイルス感染拡大防止策を継続的にやってきた。今後も、引き続き、安心安全な環境づくりに努めていく。

A25「学習に必要なICT機器や図書等を整えている」は、教職員100%・保護者83.5%・児童95.3%であった。今年度、児童一人ひとりにタブレット端末が貸与されたことから、その使い方を教員間で共通理解するとともに、校内研修や校外への研修会派遣を通して、教職員の技能を身に付け、児童の学習活動に取り入れていった。今後も、積極的にタブレット端末を活用することで、教職員のみならず児童の技能も高めていく。また、他のICT機器や図書等についても、学校配当予算を有効活用し、教育効果を高める教材を整備していく。

教職員のみが回答するA13「特別な支援を必要とする児童生徒への適切な支援」、A16「外国人児童生徒等への適切な支援」、A19「職員全員がチームとなり協力」の肯定的回答が100%、A20「業務の効率化」の肯定的回答が97.1%であった。今後も、教職員が教育に対する高い意識をもち、指導力を互いに生かしながら、協力して組織的に教育活動を推進していくとともに、「働き方改革」を進めながら、業務の改善・効率化を図っていく。

7 学校関係者評価

【目指す児童の姿について】

(1) 健康（保健・食・安全）・体力について【元気】

- ・体育の児童の姿を見ると、とても元気にしているのでとても健康によいと思う。
- ・人生は、健康と体力が一番大切だと思うので、指導に力点をおいてほしい。
- ・児童の肯定的割合が、昨年度より高くなっていることは良い傾向であると評価できる。この傾向が続くことを期待する。
- ・コロナ禍でも、学校の活動をいろいろと工夫されている。
- ・自由にボランティアとして参加できるようになったら、昼休みの歯磨き指導「きらきらクラブ」に行きたい。
- ・児童の回答がほとんど90%以上の中で、B2が87.6%なのは、児童がもっと頑張りたいの表現とも考えられる。現状の検定カードの達成に意欲的と考えたい。ハードルを下げることはどうか。
- ・制約が多い中で、検定カードなどを使って児童の意欲を高めていることが分かった。
- ・登下校時、安全に気を付けて上級生が下級生の面倒を見ながら歩かれており、マスクも使用し感染対策もきちんとしてあいさつしていた。

- ・コロナ禍での児童の健康・安全を保つのは大変だと思う。
- ・各種検定・体育授業：休み時間の運動で体力の増進を図っているのは良い。

(2) 学習指導について【やる気】

- ・授業参観に行くと、先生の教え方もとてもよく、児童のやる気をうまく引き出している。
- ・社会に出て評価されるのは「やる気」である。日頃から注意して指導する。
- ・ICTの活用は今後一層求められるが、併せて本を手にとって「読む」という習慣も大切と考える。
- ・ICTの活用が、児童のやる気を後押ししているようで期待したい。
- ・「やる気」を引き出すための先生方の努力がうかがえる。
- ・「宇都宮を知っている」については、宇都宮に関係する偉人（宇都宮氏・藤原定家・宇都宮頼綱）との関係などを話し、文化的面から郷土愛を深める指導をしてはどうか。
- ・「持続可能な社会」について、教職員の割合が向上していることは素晴らしいと思う。これからの教育現場で的確に実践していくことが求められる。
- ・英語で挨拶してくる子、パソコンを器用に使っている子がたくさんいて、おどろいている。
- ・A1児童の回答が95.8%と高く、児童がより主体的に学習に取り組めるように継続指導することに賛同する。
- ・目標を持つことや粘り強くということに、保護者の期待が大きく求めているのだと思う。
- ・コロナ禍で授業の様子を見ることができなかったが、評価などから進んで学習に取り組んでいることが分かる。評価の低かった宇都宮の良さも理解されてきている。親子で話し合える機会が持てればよいと思う。
- ・児童の挑戦意欲を引き出したり努力する意味を分からせたりする課題を設定してるのも面白い。
- ・英語やタブレットの授業もやる気を促進させる。

(3) 児童指導について【思いやり】

- ・校外学習で峰小の児童が来ると、きちんと挨拶をし、質問もよくできてとても気持ちがよい。先生の指導がよいと思う。
- ・社会生活の基本は「挨拶」がきちんとできるかが問われるので、継続して指導する。
- ・いずれの項目も高い割合であり、達成度が高いと推察される。
- ・マスクをしていても笑顔が伝わる挨拶をしてくれる。こちらも元気になる。
- ・A14は、児童が98.8%、教職員100%に安心している。方向性が拡充という学校の意識の高さに感心する。
- ・素直で優しい児童が多いと感じている。
- ・活動の中で、先生方が児童の性格を理解した上で声掛けや対応をされていて感心した。
- ・育成会の体験活動では、きちんとルールを守り、挨拶もできていた。2年間行事が中止になったが、仲間と協力する姿が平成4年度には見られることを楽しみにしてる。
- ・いじめや不登校の問題も、児童と先生との信頼関係が構築されているようだ。
- ・児童に自主的・主体的に行事や活動に取り組ませているのも良い。

【目指す学校の姿について】

- ・体育協会長としてアイディアを出させていただく。
- ・峰地区は、地域協議会の活動が素晴らしいと市教委の方が言っていた。これからも微力ながら協力させて頂く。
- ・地域に住んでいると、峰小の様子が回覧板や各種団体の資料からよく分かり、峰小学校の職員が一丸となり児童の教育に当たっている事が分かる。素晴らしい学校だと思っている。
- ・「チーム学校」の取組が進んでいるようだ。
- ・「家庭・地域・企業との連携」の項目で、児童の割合が14ポイント程度高くなっている。児童の実態として、この項目がよりよい方向に向かっているのであれば、素晴らしいと思う。
- ・縦割り班活動で顔を合わせているからか、「放課後教室」で会うと、じゃれ合うように仲良しになっていて微笑ましい。
- ・B1・B4は、他の学校の模範といえる学校と思える。コロナ禍でもできることを考えて行っている学校でよかった。
- ・A16・19・20の教職員の回答が高い肯定で、先生方が自信をもって教職を全うしていることに安心する。
- ・次世代を担う子ども達にとって、SDGsは重要だ。身近な問題として考えられるようになってほしいと思う。
- ・先生方の負担がコロナ禍で増加しているのではないかと心配だ。各家庭でもやるべきことが増え対応できない家庭があるのではと気になっている。
- ・峰小の合い言葉「元気・やる気・思いやり」が十分に理解されている。
- ・コロナ禍の中、工夫しながらご指導いただき、感謝申し上げます。今後も、感染対策を行い、子ども達の夢が実現するようにご指導をお願いします。
- ・先生方全員がチームとなり、業務の効率化を図っているのもよい。これからも「働き方改革」を進めてほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

「目指す学校の姿」について

学校関係者皆様のご意見から、本校児童や教職員のことを温かく見守っていただいていることが実感できた。今年度の評価をもとに、児童がより充実した学校生活を送ることができるように、「一人ひとりにとって居がいのある学級づくり」「分かる授業の展開と個に応じた指導の充実」「学習環境の整備・充実」を継続的に実施していく。また、学校の教育活動や児童の様子については、学校公開を行ったり、保護者や地域に適宜発信したり、保護者・地域と課題を共有し役割を分担して対応したりするなど、保護者や地域と連携を図りながら、地域とともにある学校の実現に、より一層努めていきたい。

今年度明確になった成果と課題を踏まえ、「チーム峰」としての組織力を発揮しながら、次年度も学校運営の最重点活動である【峰小 元気・やる気・思いやり活動】を全校体制で推進していく。

健康（保健・食・安全）・体力について【元気】

「健康でたくましい子」の実現活動として、「自己の健康に関心を持ち、進んで運動に親しむ態度の育成」「望ましい生活習慣の育成と食に関する指導の充実」に努める。次年度は、今年度の授業実践を基に「体力・保健・食育・安全」の4つの分野を関連させた授業や保健指導、給食指導に取り組んでいく。特に、教科体育の充実・視力低下防止の指導・食に関する指導・感染症対策の指導については、家庭に情報を発信するとともに地域学校園とも連携を図りながら取り組む。

学習指導について【やる気】

「よく考え進んで学ぶ子」の実現活動として、「基礎・基本の確実な定着」「まとめの学習の充実」「家庭学習の習慣化」に努める。教師の英語力やICT活用能力などの研修をより一層重ね、分かりやすい授業づくりに努める。特に、タブレット等のICT機器を効果的に活用して問題解決的な学習の充実を図り、「できた」「分かった」が実感できる授業展開の工夫と個に応じた指導の充実を通して、学力の向上を図る。また、引き続き、各学年の学習内容に準じて宇都宮のよさを実感できるような指導の充実を図る。地域学校園統一の「学習のきまり」を活用し、学習習慣の定着を確実に図っていく。読書についても、読書ノート「みね読書人」や巡回図書の有効活用、地域学校園共通の読書活動、さらに家庭と連携した「家読」の工夫等を通して、読書習慣の向上を図っていく。

児童指導について【思いやり】

「心豊かで思いやりのある子」の実現活動として、「あいさつ運動」の推進に努める。あいさつ運動では、児童会を主体としてPTA・地域学校園などと連携して実施し、あいさつを自発的にできるようにすると共に、心のこもったあいさつを通して周りの人を大切にする態度を育成する。「峰小よい子の一日」に即した指導を継続的に行い、ルールやマナーを守る態度を育成するとともに、全教育活動の中に共に学び合う場や自他の良さを認め合う場を意図的に設定し、児童の自己肯定感を高め、望ましい人間関係の醸成に努めていく。また、キャリアパスポート等を活用しながらキャリア教育を推進し、進んで働くことの意義を理解したり、行動したりできる児童の育成を目指す。